

第 7 回リフレクション会議について(令和 6 年 10 月 9 日)

講師

- 一般社団法人 School Transformation Networking 代表理事 山口 裕也 先生

協議内容

- 子どもの主体性を育む教育活動 ～打出浜小学校 5 年生の取り組み～

内容

第 7 回の会合では、打出浜小学校 5 年生担任の藤原教諭と渡邊教諭の実践報告を通して、子どもの主体性を育む教育についての理解を深めました。

打出浜小学校 5 年生では、これまで一斉一律に出していた宿題を、子どもが自分で課題を決め取り組む自主学習へと変えました。

この自主学習では、子どもが自分の課題に応じて苦手な計算問題にチャレンジしたり、漢字の書き取りに取り組んだりします。また、自分の興味があることを深く調べることで、好きなことや得意なことを伸ばす子どももいます。

自分で課題を決めることで、一斉一律の宿題に取り組んでいた時よりも学習効率が上がったほか、学習に取り組む子どもの意欲も向上し、ノートを丁寧にまとめたり、好きなことを詳しく調べて深く学んだりする子どもの姿が見られるようになったそうです。

また、算数の分数の足し算と引き算の単元で取り組んだ自由進度学習でも、一斉学習と比較すると学習の定着が見られ、子どもの主体性も向上したことが報告されました。

この自由進度学習は、さらに難しい問題にチャレンジすることも、納得のいくまでじっくり取り組むこともできます。教師も、困っている子どもに対してより手厚くサポートをすることができるため、一人ひとりの理解度に合わせた支援が可能になります。個別に最適な学習課題と、必要な支援を得られるという点で、学習効果が高まり、学習の定着につながったと考えられます。

また、自由進度学習は、学習場所や学習方法、学習ペースを自己決定できるという特色があります。打出浜小学校の 5 年生でも、一人でもくもくと学ぶ子どももいれば、友達と教え合いながら学ぶ子どももいることが報告されました。今日どこまで学び、何ができるようになりたいのかを自分で決め、そのための学習方法を自ら考案することによって、子ども自身の主体性が伸びていると考えられます。

このほかにも、学校に休みがちの子どもが、毎日学校に来るようになったことが報告されるなど、個別最適な学びの実現が、学校の中での安心感にもつながっていると考えられる報告がありました。

一方で、だれと学ぶのかを子どもが自己決定できるため、学ぶ仲間の固定化と人間関係の固定化もあわせて見られるとの報告がありました。個別最適な学びを実現しながらも、人間関係を広げる取り組みに変えていくにはどうすればよいのか、藤原教諭と渡邊教諭も悩みながら日々実践を積み重ねているようです。

講師の山口先生からは、子どもたちの個別の課題を全体で共有することで、同じ課題、似た課題同士で学び合おうとする人間関係が生まれ、これによって新たな人間関係に発展するとの助言をいただきました。

